

【授業科目】 産業看護学演習Ⅱ（産業看護技術論） Advanced Seminar of Occupational Health NursingⅡ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
後藤 由紀、大谷喜美江、柴田英治	1年次後期	選択	2	60	演習	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>コミュニケーション技術、グループワーク技術など産業看護を実践に欠かせない技術について学生によるプレゼンテーションと討議を行う。また、その他の産業看護技術について文献の抄読会を通して産業看護活動への活用方法を教員と議論することで学びを深める討議形式で展開する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/授業時間内のディスカッションをとおして全体で検討し、学生にコメントする。</p>					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシーの④の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①健康教育の基礎理論を活用して企画、実施、評価ができる。</p> <p>②保健面接技術を用いて保健指導できる。</p> <p>③ケースワーク技術を活用して事例検討できる。</p> <p>④産業看護技術を活用する際の課題を把握し、その解決方法を考えることができる。</p>					
時間外学習に必要な内容・時間	<p>テーマについて日頃の实践活动を理論的に述べるように準備しておく。(90分)</p> <p>授業の討議を振り返り、学びをまとめる。(30分)</p> <p>演習や討議で考えたこと、理解したことについてレポート形式でまとめることにより、自身の学びを深める。(120分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画	<p>第1～3回 健康教育の理論と技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康教育の基礎理論 2) 健康教育のプロセス-対象者(対象集団)のアセスメント、計画、実施、評価 3) 行動変容を伴う健康教育方法の開発 4) グループワークの基礎 5) 健康教育に関する文献クリティーク <p>第4～6回 保健面接技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 面接の基本となる構成要素 2) 面接をはじめめるにあたって 3) コミュニケーション 4) スーパービジョンとケース・カンファレンス 5) 保健面接技術に関する文献クリティーク <p>第7～9回 ケースワーク技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ケースワークの定義と基礎 2) ケースワークの実際 3) 情報管理 4) ケースワークに関する文献クリティーク <p>第10～30回 上記以外の産業看護技術に関する文献クリティークを通して、産業看護活動への活用について学ぶ</p>					<p>後藤</p> <p>大谷</p> <p>柴田</p> <p>全員</p>
評価方法 評価基準	授業への参加姿勢 70% レポート 30%					
教科書	特に指定しない	参考書等	授業時に提示する			